

香岐島に至りて、雪連宅満の忽ちに鬼病に
遭ひて死去せし時に作る歌一首并せて短歌

三六八八番

天皇の遠の朝廷と 韓国に 渡る我が背は 家
人の 齋ひ待たねか 正身かも 過ちしけむ
秋さらば 帰りまさむと たらちねの 母に申し
ても過ぎ 月も経ぬれば 今日か来む 明日
かも来むと 家人は 待ち恋ふらむに 遠の国
いまだも着かず 大和をも 遠く離りて 岩が根
の 荒き島根に 宿りする君

反歌二首

三六八九番

石田野に 宿りする君 家人の いづらと我を
問はばいかに言はむ

三六九〇番

世の中は 常かくのみと 別れぬる 君にやもと
な 我が恋ひ行かむ